



コスモスだより

【ニューストピックス】

低侵襲外科手術センター

消化器(肝・胆・膵)の 腹腔鏡下手術

【お知らせ】

新型コロナウイルスへの対応について

開業医紹介コーナーのお知らせ

高齢者・災害リーフレットコーナーのお知らせ

4月からの新体制のお知らせ

4月から皮膚科平日診療を再開

《地域連携ニュース》

令和元年度紹介件数のご報告

病院の理念 基本方針

地域住民を守る良質な医療の提供

1. 医療を通じ患者さんの喜びが自らの喜びになるような職業人をめざします。
2. 常に技術の研鑽に努め、高度な医療の提供により、病気の早期発見・治療の充実をめざします。
3. 患者さんの治療には、各々の職務を結集したチーム医療をめざします。
4. 地域の医療機関と連携を密にし、信頼される中核病院として急性期医療をめざします。

低侵襲外科手術センター

消化器（肝胆膵）の腹腔鏡下手術

2018年10月、身体に優しい外科手術（内視鏡外科手術）をより安全に行い、より多くの手術に対応できるよう【低侵襲外科手術センター】がスタートしました。本誌コスモスだよりにて紹介してきました「低侵襲外科手術センターでの腹腔鏡下手術」シリーズも今回で最終、消化器外科の肝・胆・膵部門のご紹介です。



■身体への負担が少なく低侵襲な腹腔鏡下手術

腹腔鏡下手術は、お腹や脇腹に開けた小さな穴から、腹腔鏡（専用の内視鏡カメラ）やマジックハンドのような手術器具を挿入して、モニターに映し出される体内の臓器や手術器具の画像を見ながら行う手術です。

腹腔鏡下手術のメリット

傷が
小さい

出血が
少ない

癒着が
少ない

傷が小さく身体への負担が少ない

腹腔鏡下手術は、傷が小さく痛みが少ないため翌日から食事と歩行を開始でき、早い回復につながります。特に開腹手術の傷が大きい肝切除では、そのメリットが大きくなります。

早期退院・社会復帰ができる

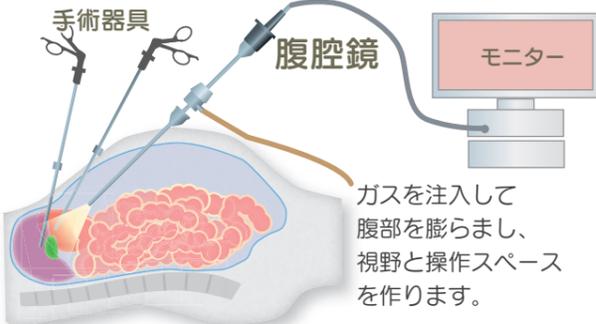
早期のリハビリ開始で、早期の退院・社会復帰が可能です。経済的な負担はもちろん精神的負担も軽減できます。

切ることで起こる合併症を軽減

肝機能が低下した方には、「側副血行路」と呼ばれる新しい血管・リンパ管が腹壁にできています。開腹手術で大きく腹部を切ると、腹水などの合併症の危険性が高くなります。腹腔鏡下手術では、こうしたリスクも軽減します。

癒着による合併症を軽減

腹腔内で癒着すると、腹痛や腸閉塞などの合併症が発生する場合があります。また、癒着は再手術の妨げとなります。肝臓がんは、肝臓内での再発が多く複数回の手術が必要となる場合があります。腹腔鏡下手術では癒着が少ないため、再発した場合の手術も行いやすくなります。



【肝切除術の創部（傷跡）例】



(開腹手術)

視野を確保するため、腹部を大きく切り開く必要があります。肝臓は大きな臓器のため、開腹の創部は30～40cmの長さになります。



(腹腔鏡下手術)

創部は約1～2cmと非常に小さくなります。肝臓の切除部分が大きく取り出し口を広げる場合でも、15～20cm程度の傷で済みます。

■ ICG 蛍光ナビゲーション手術

蛍光物質 ICG（インドシアニングリーン）には、蛋白と結合し近赤外線を当てると発光する特性があります。この特性を活かし、手術中に血液やリンパの流れをリアルタイムに確認できます。また、肝臓や胆嚢・胆管を流れる胆汁内に排泄され、肝臓や胆嚢・胆管内で長時間発光します。当院では昨年10月より、近赤外線を体内で照射できる腹腔鏡システムを導入。ICGの発光を活用しながら、より精度の高い腹腔鏡下手術を行っています。

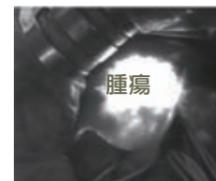
肝臓・胆嚢疾患手術での ICG の活用

腫瘍が発光 明瞭に判別

ICG を取り込んだ腫瘍が発光

【肝内胆管がんの症例】

手術の1か月前に肝機能評価のために投与した ICG が、腫瘍に取り込まれて残存。近赤外線照射で発光し、腫瘍を明瞭に識別できます。

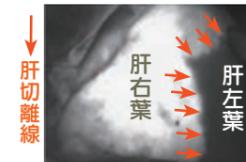


肝臓の 切離線を特定

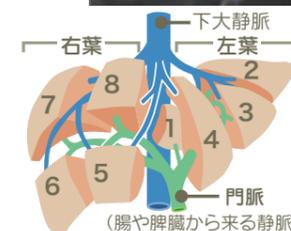
肝区分を染め分けて切離線を特定

【肝右葉切除の症例】

手術中に右門脈に ICG を局所注射。肝右葉が明瞭に染め分けられており、肝切離線が一目瞭然になっています。



肝臓は血流が豊富な臓器で、手術では血管の損傷を最小限にすることが重要です。肝臓は血管の枝分かれに沿って右図のように区域分けされています。一部の血管を結末して ICG を注入することで、区分を染め分け安全に手術することができます。



組織の 状態を確認

術中に組織の状態を確認してリスクを軽減

【術中胆道造影の例】 ※写真をイラスト化しています



手術開始直前に ICG を投与して、術中に肝胆道系を蛍光で識別。組織の状態が明瞭に確認できます。左の写真は同一症例で、胆嚢管が右肝管から分枝する奇形があります。ICG 胆道造影により、術中に異常な分枝が確認でき、胆道損傷のリスクが回避できます。

◆ 肝臓手術にメリットの大きい腹腔鏡下手術。安全性の確保へチーム力の強化も。

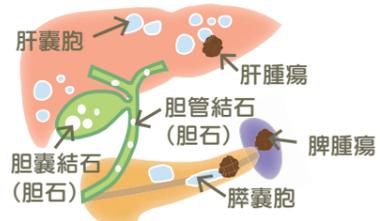
当院には「消化器・肝臓センター」があり、泉州地区での肝臓疾患治療の中心的役割を担っています。その外科部門として、肝・胆・膵臓分野の殆どの腹腔鏡下手術に対応しており、多くの患者様に腹腔鏡下手術を提供しています。特にメリットが大きいのが、開腹手術では傷が大きくなる肝臓の手術です。また肝臓がんは、残肝再発のため複数回の手術が必要となる場合がしばしばあります。そのため、癒着など再手術の妨げとなる合併症が起きにくいことは、非常に大きなメリットと言えます。

一方、腹腔鏡下手術を行う上で重要なのは安全性です。肝臓の例を挙げれば、エコー・電気メス・超音波凝固切開装置・超音波破碎吸引装置（肝臓を削る器具）など多くの器材道具を使用します。こうした道具を正しく管理し、スタッフ全員が手術の内容や道具を熟知していなければなりません。低侵襲外科手術センターでは、医師・看護師・臨床工学技師が1つのチームとして、様々な角度から腹腔鏡下手術の安全性の向上に取り組んでいます。

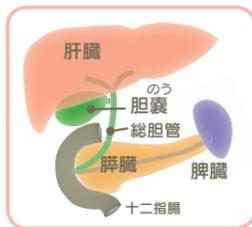


低侵襲外科手術センター

肝胆膵の主な腹腔鏡下手術



- | | |
|---------------|---------------|
| 肝切除術 | 胆嚢摘出術 |
| ●肝腫瘍（良性・悪性） | ●胆石症 ●急性胆石症 |
| ●肝嚢胞 | ●胆嚢ポリープ |
| 尾側膵切除術 | 総胆管切石術 |
| ●膵腫瘍（良性・悪性） | ●胆嚢摘出を含むもの |
| ●膵嚢胞性腫瘍 | ●胆管結石 |
| | 脾摘出術 |
| | ●脾腫瘍（良性・悪性） |
| | ●脾機能亢進症 |



【嚢胞】液体や個体の溜まった袋が体内にできたもの。炎症などに伴ってできる嚢胞や腫瘍性の嚢胞があります。通常は経過観察ですが、圧迫症状があったり悪性腫瘍への変化が考えられる場合は手術となります。

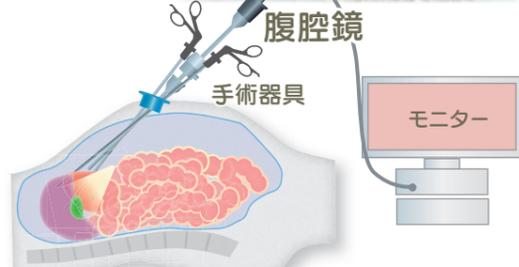
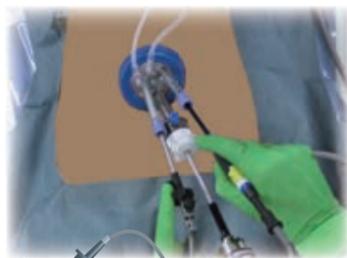
【胆石】胆汁に含まれる成分が結晶化したもので、体内にできる結石の一種です。

単孔式腹腔鏡下手術

単孔式 — 傷が1か所でより目立たない腹腔鏡手術

へそに開けた1つの孔から腹腔鏡と手術器具（鉗子）を差し込んで手術を行います。そのため、体表の傷跡が1つですみます。

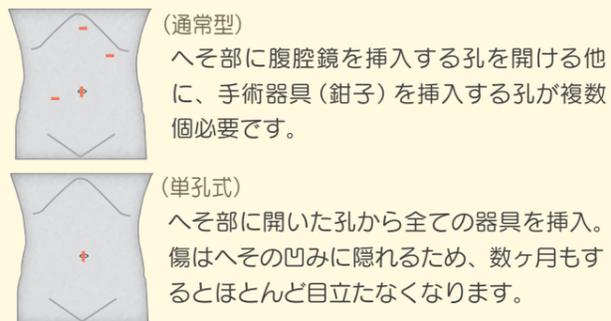
当院では2012年から大腸・小腸疾患に、2013年から胆石症・虫垂炎など良性疾患に単孔式腹腔鏡下手術を導入しています。



単孔式腹腔鏡下手術の対象疾患

- | | |
|---------|------------|
| ●胆石症 | ●肝嚢胞 |
| ●胆嚢ポリープ | ●消化管良性腫瘍 |
| ●虫垂炎 | ●癒着性腸閉塞 など |

【腹腔鏡下胆嚢摘出術の創部（傷跡）例】



◆ 整容性に優れた単孔式腹腔鏡下手術。安全性にも問題はありません。



傷跡が小さく目立たない腹腔鏡下手術ですが、単孔式は傷が1か所のため、より目立たなくなるのがメリットです。そのため、単孔式を選択される女性は多いのですが、単孔式を考慮する際に気になるのはやはり安全性でしょう。

通常の腹腔鏡下手術と違い、単孔式は手術器具（鉗子）と腹腔鏡（カメラ）が1つの孔から入ります。そのため、鉗子の動きに制限があり手術の難易度は上がり、手術時間も20～30分程度は長くなります。しかし、手術の安全性が確保できない場合は、通常の腹腔鏡下手術へ移行しますので、合併症が増えるなどの心配は不要です。実際には、術中の術式変更は当院ではほとんどありません。

ただ単孔式の場合、創部が1つしかないため痛みが分散せず、術後の痛みを強く感じる場合があります。こうした点を患者様に十分にご説明した上で術式を選択していただいています。

新型コロナウイルス感染症に対する 当院の対応について

令和2年4月末現在

新型コロナウイルス感染症感染拡大の対応として、院長をはじめ、副院長、感染防止対策チームのメンバー等を委員とした「新型コロナウイルス感染症対策本部」を設置しました。

当院は感染症病床を持つ第二種感染症指定機関には該当しませんが、公立病院として、このウイルスの蔓延から地域住民の皆様をお守りすることが責務です。対策本部では患者様はもちろん職員の感染防止を最優先に考えたうえ、関係機関との連携や、診療体制の調整などを検討していきます。ご理解ご協力をお願いいたします。

感染が疑われる場合の相談窓口について

感染が疑われる場合、来院される前に必ず下記相談窓口にお問合せください。

- ◆新型コロナ受診相談センター（帰国者・接触者相談センター）※土日祝を含む終日 ☎ 06-7166-9911
- ◆府民向け相談窓口について ※9:00～18:00 土日祝も対応 ☎ 06-6944-8197

感染が疑われる症状

- 風邪の症状や37.5度以上の発熱が4日以上続く場合
- 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある場合
- 高齢者、糖尿病、心不全、呼吸器疾患（慢性閉塞性肺疾患など）の基礎疾患がある方、免疫抑制剤や抗がん剤などを用いている方で、これらの状態が2日程度続く場合

PCR検査について

当院ではPCR検査については実施しておりません。

面会禁止のお願い

入院患者様への（緩和ケア病棟・病院から来院をお願いした場合除く）面会を禁止とさせていただきます。

◆新型コロナウイルスに関する最新情報は、厚生労働省のホームページをご覧ください。



一般の方向け
Q & A



企業の方向け
Q & A



開業医紹介コーナーのお知らせ

市内の医療機関を中心とした開業医紹介のパンフレットを1階コンビニ壁側「地域医療連携コーナー」に設置しております。是非ご活用ください。

※医療機関のパンフレット設置のご希望も承っております。

【お問い合わせ】 地域医療連携室 ☎ 072-422-5865



高齢者・災害リーフレットコーナーのお知らせ

認定看護師がそれぞれの分野で、高齢者や災害時の医療についてお伝えしたい情報をリーフレットにしました。1階コンビニ壁側「地域医療連携コーナー」の隣に設置しております。是非ご活用ください。

《認定看護師とは》

専門的な知識や技術を学び、看護協会が定める認定看護師審査に合格した看護師のことです。

設置リーフレットタイトル（一部）

- 高齢者と乳がんについて
- 高齢者のおむつかぶれ
- 災害！手術はどうなる？
- 災害！感染対策 これだけは知っておこう
- 災害！糖尿病患者さんの対策は？

4月からの新体制のお知らせ

総長就任のご挨拶



総長
(貝塚市病院事業管理者)
片山 和宏

市民の皆様、地域の医療機関から頼りにされる病院へ 更なる努力を積み重ねる

このたび、佐々木裕前総長の後任として、総長（貝塚市病院事業管理者）に就任致しました、片山和宏と申します。どうぞよろしくお願い致します。

私は関西に生まれ育ち、大阪大学附属病院、大阪厚生年金病院（現 JCHO 大阪病院）、大阪国際がんセンターにそれぞれ約 10 年在職し、本年 4 月より市立貝塚病院に着任致しました。専門は消化器病ですが、大阪国際がんセンターでは臨床研究センター長として臨床研究の推進等にも関わって参りました。これまでの経験から、高度で良質な医療の提供はもちろんのこと、地域の医療機関と顔の見える連携や市民の皆様への正しい情報提供とともに、人を全人的に支えることも大切と考えております。

当院は「地域住民を守る良質な医療の提供」という理念を実践するため、佐々木前総長、今本院長と病院スタッフ全員が力を合わせて病院運営を進めてこられ、昨年は創立 80 周年を迎えることができました。これは、これまで市民の皆様や地域の医療機関の皆様が当院を信頼し支えていただいた賜物と存じます。社会や医療の情勢が大きく変化しつつある中、今までの流れを継承しつつ、また皆様からのご意見を頂きながら、よりよく発展できるように努力していきたいと存じます。今後とも、ご理解とこれまでと変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

事務局長就任のご挨拶



事務局長
奥野 哲也

安心して気持ちよくご利用いただける病院づくりを

本年 4 月 1 日付けで事務局長に就任した奥野でございます。

事務局は、医療に直接携わることはありませんが、診療に直接関係すること以外のほとんど全てに関わっています。また、医療職でないがゆえに、院内で患者さんに一番近い立場にあると考えています。

「当院にご来院いただく皆様に、安心して、気持ちよくご利用いただきたい」というのが私の思いです。人員体制や費用的な制約、医療制度的な問題もありますが、ご利用いただく方々の目線に立ち、職員の創意工夫により、よりよい病院づくりに取り組んでまいりたいと考えています。皆様どうぞよろしくお願い申し上げます。

診療科部長就任のご挨拶



泌尿器科部長
杉本 公一

地域の先生方と連携を取り、献身的な医療の提供を

前任地は国立病院機構大阪南医療センターで本年 1 月よりご縁があり市立貝塚病院に赴任いたしました。生まれ育ちは堺市で、学生時代、医師になってからも大阪から離れたことはありません。小学校から大学まで野球部に所属し、純粋で青春を謳歌している高校野球観戦が大好きな泌尿器科医です。

専門は尿路悪性腫瘍・排尿障害・腎移植など多岐に渡り様々な分野で認定医を取得し、幅広く泌尿器科診療を行ってまいりました。今までの経験を活かして当院で積極的に取り組んでいる前立腺疾患に関しても、患者さんの治療満足度を求めつつ貢献していきたいと考えております。泉州地域に根付いた当院において、地域の先生と連携を取り合い患者さんにより親切かつ献身的な医療を提供出来るように努めてまいりますので、何卒宜しくお願い致します。



外科・消化器外科部長
高山 治

泉州地域での安心・安全な胃がん治療に尽力

このたび、令和 2 年 4 月 1 日付けで市立貝塚病院 外科・消化器外科に赴任しました、高山治と申します。前任地は大阪府済生会千里病院で、5 年間勤務しておりました。消化器外科の中でも主に胃がん治療を担当させていただき、多くの手術や薬物治療に携わってまいりました。

当院では、低侵襲外科手術センター、化学療法センター、消化器・肝臓センター、がんサポートチーム等が運営され、多職種でのチーム医療を推進しながら、できるだけ負担が少なく安心・安全な治療に取り組んでいます。このチーム医療の一員として、泉州地域の胃がん治療に尽力したいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。



放射線科部長
西澤 光生

放射線画像診断の進歩を診療の質につなげる

本年 4 月に放射線科に赴任いたしました、西澤光生と申します。放射線画像診断、特に頭部神経領域を専門としております。前任地は大阪医科大学放射線医学教室で、頭部画像診断への人工知能の活用を研究しておりました。

放射線診断医は、患者さんと直接対面して診療を行う診療科の医師とは異なり、あまり目立たない存在ではありますが、最適な治療を選択できるよう、各診療科と共同しながら裏方的な仕事を受け持っています。画像検査の分野は、CT・MRI を初め著しい進歩を遂げています。的確な画像検査を診断に取り入れ、診療の質を向上させことを目指して取り組んでまいります。よろしくお願い申し上げます。

4月から皮膚科平日の診療を再開

皮膚科は、昨年 12 月から週 2 日の診療となりご不便をお掛けしておりましたが、4 月より月曜日から金曜日（平日全日）の診療が始まりました。

曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	山内 康平		山内 康平	山内 康平	山内 康平
午後		13:30 ~ 白鳥 隆宏			

※皮膚の腫瘍、褥瘡、熱傷、ケロイド、巻き爪、陥入爪については、従来通り形成外科（月～金曜日 午前診察）で対応しております。



皮膚科
山内 康平

医療従事者向け情報（地域連携ニュース）

令和元年度 紹介件数のご報告

地域の医療機関の皆様から 1 年間で 8,164 件のご紹介をいただきました。ありがとうございました。

地域医療連携室は地域の医療機関等と密な連携を図り、機能分担を行いながら、患者様に満足いただける質の高い医療を提供することを目的としています。患者様にも医療機関の皆様にも、より信頼していただける市民病院となるよう努力してまいります。今後ともよろしくお願い申し上げます。

科別	件数	科別	件数
内科	646	小児科	498
消化器内科	1,213	皮膚科	200
神経内科	167	泌尿器科	685
外科・消化器外科	430	産婦人科	1,188
乳腺外科	826	眼科	770
形成外科	401	耳鼻咽喉科	12
整形外科	510	放射線科	618